

平成 28 年 6 月 17 日 (金) (15:00~16:20)
於 多治見市産業文化センター3 階大会議室

平成 28 年度 第 1 回 多治見市平和町、池田町、前畑町、田代町等
雨水排水対策協議会 議事要旨

1. 市長挨拶 省略

2. 委員紹介 省略

3. 進捗状況について

取組状況の報告

① 国土交通省庄内川河川事務所

河-4 脇之島川の合流処理 (p 1)

平成 27 年度は脇之島川付け替え工事を実施。進捗状況は予定通り。平成 28 年度は平成 29 年度完成に向けて、引き続き工事を実施予定。

河-6③ 土岐川の水位低下対策 (p 3)

平成 27 年度は辛沢川合流点付近の堆砂対策として、水制の設置検討を実施。平成 28 年度は平成 25 年度に掘削した部分の堆砂除去を予定。平成 29 年度は護岸の整備に合わせて水制を設置予定。

質疑

Q 1) 辛沢川の合流点は、すでに堆砂しているので、今後、何年ごとに堆砂除去を実施するのか。

A 1) 今年度に堆砂除去を実施する予定であるが、根本的な対策として平成 29 年度に水制を設置して堆砂しにくいようにする予定。

Q 2) 水制とはなにか。

A 2) コンクリートや石などを川の流れに対して垂直に護岸から張り出して設置し、川の流れを変えるもの。

② 国土交通省多治見砂防国道事務所

軽－５ 防災情報の拡充（p 22）

平成28年度は、CCTV（監視カメラ）を設置する予定。

③ 岐阜地方気象台

軽－１ 防災情報の拡充（p 21）

平成28年度、平成29年度は、気象情報の利活用についての周知・啓発（新たなステージに対応した気象情報の改善）を行っていく予定。

○追加資料（新たなステージに対応した防災気象情報（概要））についての説明

④ 多治見市都市計画部

抑－３④ 貯留施設の新設（音羽町2丁目）（p 16）

市営駅西駐車場を含む約2haで再開発事業が決定したことに伴い、その中で雨水貯留施設の検討をすることとなった。そのため、5年目までに完成は見込めないが、事業者への要望を実施していく。

抑－３⑤ 貯留施設の新設（p 17）

平成27年度は1箇所完了。平成28年度は残りの2箇所を施工予定。

⑤ 多治見市建設部

河－５ 脇之島川の整備（p 2）

平成27年度は用地買収及び河川改修の中で仮設橋、橋梁下部工を繰り越して実施中。平成28年度は残り1件3筆の用地買収を夏頃までに終え、引き続き工事を実施予定。

河－９ 観音寺川の改修（p 4）

平成27年度は2月に地権者と境界立会いを実施。平成28年度は用地買収を行い、平成29年度から工事着手できるように準備を進めていく予定。

河－10 河川改修・排水路改良（p 5）

平成28年度は引き続き、赤坂町の工事を実施。

排－８ 大原川への排水樋管の改良（p 9）

平成27年度で完了。

抑－２ 流域調整（p 13）

平成27年度に岐阜県と協議を実施。平成28年度は占用許可後、工事を実施する予定。平和中学校の雨水は京町方向へ流れているため、平和中学校の流出抑制機能については個表から削除するが、グラウンドの改修に合わせて検討する。

抑-3① 貯留施設の新設（音羽緑地公園）（p14）

平成27年度は音羽緑地管理者と協議を実施。当初、市単独事業で行う予定であったが、100mm安心プランの中で計画を変更し、補助対象事業として実施することとした。平成28年度は補助金要望を行い、平成29年度に工事を実施する予定。

抑-3③ 流域調整（p15）

平成27年度は流域調査結果を基に再検討した結果、雨水貯留施設を取りやめ、能力不足の雨水排水路を整備することに変更した。平成28年度は測量設計を実施。

抑-4② 既存調整池等の改修（平和霊園内）（p18）

平成28年度は改修工事を実施し、総貯水量が1,500 m³から1,740 m³になる予定。

抑-9 土砂流出抑制（p20）

平成28年度も引き続き要望を実施。

軽-12② 調整池等の浚渫（北丘・パナタウン）（p23）

平成28年度はパナタウンの調整池浚渫を実施する予定。

軽-17 土岐川緊急アクセス橋新設事業（p24）

平成27年度は国、県、市の事業分担等の協議を行ったが、渋滞対策として（仮称）平和太平線の整備が計画されているため、平成28年度は、（仮称）平和太平線の関係機関との調整を行う予定。

質疑

Q1) 抑-9（p20）治山事業として要望した感触はどうか。

A1) その他の要望と併せて、実施しているが、具体的な進展はない。

Q2) 軽-17（p24）土岐川緊急アクセス橋の計画は無くなったのか。また、（仮称）平和太平線の整備には相当な時間がかかるが、緊急アクセス橋のほうが緊急性があるのでは。

A2) 計画が無くなった訳ではない。（仮称）平和太平線がこの辺りを通る可能性があり、また、緊急アクセス橋の機能を持たせることも考えられるため、関係機関と調整を

図り、手戻りの無いようにするため、1、2年見合わせる。

Q 3 ①) 抑- 3 ③ (p 15) 太平公園内は調整池としての適地ではなかったということか。

A 3 ①) 太平公園付近の排水路の能力は十分であったが、赤字で示された箇所においては能力不足が分かったため、直接的な対策に変更したい。

Q 3 ②) 調整池として整備する余地があれば、ここだけの話ではなく、下流への影響も考えるべき。

A 3 ②) 調整池については、費用もかなり掛かるため、まずは直接的な対策を実施したい。

Q 4) 抑- 3 ③ (p 15) 調整池の代わりにポンプを設置するということか。

A 4) 道路上に雨水が溢れるのを未然に防止する目的として、排水機能の弱い所を改修し、土岐川右岸ポンプ場で強制排水する計画である

⑥ 多治見市水道部

排- 2 ポンプ場の新設 (P 6)

平成 27 年度は 11 月に土木建築工事に着工。平成 28 年度は引き続き土木建築工事、機械電気工事を実施し、平成 29 年度末に完成予定。

排- 4 ポンプ場の増強 (P 7)

平成 27 年度は、ポンプ場本体の土木工事が完了し、機械電気工事を着工した。平成 28 年度は、5 月末に辛沢川への樋管再構築工事は完了した。機械電気設備は夏過ぎに工場製作が完了し、現地設置を進め、来年の出水期には稼働できる予定。

排- 13 超過降雨対策としての雨水調整池の建設及び防災拠点整備 (P 11)

平成 27 年度は用地交渉及び国で詳細設計を実施。平成 28 年度は引き続き、用地交渉・取得を行う予定。事業については脇之島川改修及び土岐川左岸ポンプ場の完成後を予定している。

抑- 1 下水道計画の見直し (P 12)

平成 27 年度は将来的な笠原下水処理場の取り扱い、土岐川横断手法について内部、関係機関協議を実施。平成 28 年度は下水道整備事業における上位計画である流域別下水道整備総合計画等との整合を図る必要があるため、河川管理者と計画調整を図りながら手戻りの無いように進める。

抑- 7 浸透施設の普及促進 (P 19)

平成 27 年度は公共施設 1 施設に 1 基設置。個人宅には 7 件の助成を実施。

これまでに、公共施設 89 基、個人宅 363 基設置。公共施設はほぼ完了。
平成 28 年度は個人宅へ約 30 件の助成を予定。

質疑

Q 1) 排-13 (P11) 雨水調整池・防災拠点は土岐川堤防際に整備予定となっているが、構造上大丈夫か。

A 1) 詳細は決まっていないので、河川管理上問題の無いように検討していく。

Q 2) 排-2 (P6) 南幹線が脇之島川堤防下に入る計画だが、構造上大丈夫か。

A 2) 影響のある部分はポンプ場の建設に合わせて再構築する。

4. 多治見市浸水事前防災行動計画 (タイムライン) について

○追加資料 (多治見市浸水事前防災行動計画について～タイムライン～) についての説明

Q 1) 必ずしも避難所へ行くことだけが避難ではない。特に浸水に対しては 2 階へ避難する垂直避難という方法もある。その場合、住民が 2 階へ避難していることを把握することが必要と考える。難しいことではあるが、実行していくための課題が多くある。避難方法に対する住民の理解が重要であるため、住民とコミュニケーションをとりながら詰めていかなくてはならない。

A 1 ①) 具体的な避難行動については地域住民と詰めていく必要があるため、今後検討を進めていく。

A 1 ②) 避難勧告、避難指示があった時には、最終的には個人の判断でと言わざるを得ない。多治見市からの情報発信を消防団、防災無線を使って、もっと短くより明確に発信できるように取り組んでいる。今後、コミュニティー FM でもあらゆるケースに対応した情報発信の仕方を検討していく。

Q 2) 対象とする台風はどれぐらいのものか。

A 2) 今の予定では、1、2 年は普通の台風で手順を確認し、その後、超大型、大型の台風を対象としていく予定。

その他質疑・意見等

Q 1) 辛沢川合流点の少し上流で擁壁を設置する計画があったが、いつから着手するか。

A 1) 今年度新規の砂防事業でありこれから設計を行う予定であり、用地買収が伴うことから、工事着手時期は未定。

Q 1) 土岐川左岸堤防の嵩上げについてその後の進捗は。

A 1) 今年度の当初予算には予定はないが、予算の確保に向けて取り組んでいきたい。

[学識経験者からのアドバイス]

- ・今の段階でどれくらい効果があるか、見える形で示したほうが良い。
- ・全部完成しても計画を超える降雨のシュミレーションをしたほうが良い。
- ・シナリオを考えて、あらゆるパターンの対応を考えていたほうが良い。
- ・ハード整備に関して、スピードを緩めないように続けてほしい。
- ・これで絶対安心という訳ではないので、住民の皆さんが理解して行動で補っていかねばいけない。

5. 閉会